教育民生常任委員会 摘 録

1. 開催日 令和6年10月28日(月) 第3委員会室
2. 出席委員 五島誠委員長 前田智永副委員長 赤木忠徳 横路政之 宇江田豊彦 藤木百合子
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 橋本和憲議事事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 傍聴者 1名
7. 会議に付した事件
 - 1 所管事務調査について
 - 2 西城紫水高校における主権者教育のまとめ
 - 3 その他

午前10時1分 開 議

○五島誠委員長 ただいまより教育民生常任委員会を開会いたします。ただいまの出席委員は6名です。よって、直ちに会議を開きます。本日の会議において、写真撮影、録音、録画を許可しています。

1 所管事務調査について

○五島誠委員長 まず、協議事項1点目、所管事務調査について、今、本委員会では教育条件整備と子育て支援の2項目を挙げています。こちらについて、12月定例会をめぐり報告をしなければならないと考えています。今後の進め方や、もう少し調査が必要な部分、あるいはこういった提案をしたいということが皆さんからあれば伺います。私としては、教育条件整備で気になる部分として、学校の教職員の方々の勤務実態といいますか、働き方改革も含めて、私の子供が通っている学校でも改善をしたいということで取り組みはされていますが、実態がどうなのかをしっかりと見させてもらう必要があると思います。学校統廃合の件については、この間に動きがあった部分もありますし、市民の方々の注目度も。中学校については、今は無期限の延期という形をとられていますが、そうではない動きもあると聞くので、この2点については最低限押さえないといけないと思います。また、子育て支援についても、先日は長崎県大村市に行きましたし、昨年度は岡山県奈義町に行きました。もちろん、今回の総選挙を経て政府の動向がどうなるのかということもありますが、本市の少子化対策の子育て支援の部分はどうしていくのかということについては、本委員会からの提言も含めて進めまいりたいと思っています。そちらもあわせて、どのように進めていくのかを検討します。まず、教育条件整備について、今後どうしていくのか、委員の皆さんの意見をください。藤木委員。

○藤木百合子委員 来年度、峰田小学校が統合されるではないですか。峰田小学校の子供たち全員が板橋小学校の放課後児童クラブに行くのかどうか、保護者の希望を聞かれているのか少し気になって、個人的にも聞いてみたいといけないなどは思っているのですけれども、教育民生常任委員会として、その辺の実態を聞いたらどうなのかなと思いました。板橋小学校の放課後児童クラブに預けることに

なると、峰田地域からだとかかなり遠方になると思います。親御さんの仕事の関係とかいろいろあるかもしれないけれども、送り迎えのところでも実態がどうなのか気になりました。

○五島誠委員長 学校統合の件は、付随して放課後児童クラブやスクールバスといったこともかかわってくる問題です。所管課をまたぐ形になるので、一緒に招いて同時進行で進めていったほうがいいのではないかと思います。教育委員会と児童福祉課を招聘してレクチャーを受けたいと思います。そのほかに何かありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 学校統合は、これまでも市内各所でされてきていますが、最終的に、保護者の方にとっては、新しくどのような学校をつくっていくのかという点が一番重要になると思います。我々はそのことについてどうなのかという議論を、これまでもあまり深入りをしてこなかったのではないかと思います。そこを整理するのはもちろん重要なことなので、進捗状況や、どういった話し合いをされているのかといったことは伺ってもいいと思います。

○五島誠委員長 そのように考えています。他にありますか。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 今、皆さんが言われたことはごもっともだと思います。委員長が冒頭で言われた職員の勤務状況について、大きな課題があると思っています。例えば、我々が教育条件整備の中で、施設面で大きく課題があると捉えていた永末小学校では、恐らく、教職員の方が2人休まれている実態があるのではないかと思います。長らく対応を求められていたのですが、なかなか決まらずに、最近やっと4年生の担任が臨時任用の形で決定されたと伺いました。ですから、各学校でそういう実態があるのではないかと思います。教職員の皆さんが本当に安心して勤務されている状況なのか、長期離脱がないのか、臨時任用対応ができるような状況にあるのかを少し確認しておく必要があると思います。それともう1つ、本委員会では、永末小学校の教育条件整備ということで、学校施設と同時に放課後児童クラブについてとりわけ深い議論を行ってきました。その進捗を担当課に聞いておくべきではないのかなど。事と次第によっては本委員会で発議をすることも含めて、検討が必要な時期に来ているのではないかとと思うので、その点についてただす必要があると思います。

○五島誠委員長 言われるとおり、永末小学校の教育条件整備のことについても、中間報告をしていますし、その後の動きということで、委員会としてきちんと確認しておく必要があると思います。あわせて聞きます。教職員の働き方、勤務状況、あるいは会計年度任用職員等を含めた市費で対応する部分なども含めて、しっかりとした調査が必要かと思えます。分けて聞いたほうがいいと思うので、日を分ける形で進めます。他にありますか。横路委員。

○横路政之委員 教職員の働き方についての実態調査は必要だと思います。多分、精神的にも肉体的にも休みのないような状態で働かれておられるのではないかと思います。しかし、実際に調査で学校に行ったときにどこまでストレートに聞いたほうがいいのか。その辺の手法。多分、当たり障りのないことしか言われないのかなど。永末小学校の施設を見たときに、課題が結構あるのではないかと思います。校長先生は、すごくいいですよとしか言われませんでした。その辺をどのようにすればいいのか。私は改善しないといけないと思っていますが、ストレートに聞いたのでは上辺だけで終わってしまう気がします。議会として行くわけですから。

○五島誠委員長 その調査手法については、まだもう少し時間が残されているので考えながら、まずは担当課を呼んで話を伺って、それを受けてどのような方法がいいのかを委員の皆さんで議論しながら進めていきたいなど。まずはできるだけ早い段階でレクチャーの機会を設けたいと思います。子育て

支援についても、皆さんから何か御意見があれば伺います。赤木委員。

○赤木忠徳委員 先日も課長を呼んでいろいろな話をしましたが、市が取りまとめをする方向ではないのであれば、議会として庄原市の子育て環境の状況をまとめてもいいのかなと個人的には思います。各課の風通しというか、連携が割と難しいのかなと。きょねんからあれだけ言っているのに一向に出てこないですね。奈義町に行ったときに、庄原市の施策は負けてない、それらを1つのものにまとめたかどうかと。先日も話をしましたがその動きが全く見えないので、それに対して本委員会としてどう対応するのか、方向性を出さないといけないのではないかと思います。

○五島誠委員長 先日のレクチャーの際に課長も言われていましたが、全くする気がないとかそういうわけではなく、少しずつしようとしていることは広報などから見えてくる部分もあります。しかしながら、言われるようにその辺がうまくいってないというか、市全体の取り組みにまでは昇華できていない部分があります。本委員会ですることとすれば、所管事務調査の報告を行う際に、各課の連携に課題があるということをしっかりとお伝えして、改善方法についても、担当課の児童福祉課だけではなく、庁舎全体に広く周知していく必要があると思います。それを踏まえた上で、動きが出てくるのかどうかということになると思います。そのほかにありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 子育て支援については、これまでもいろいろと調査や視察を行ってきましたが、毎回、反省といいますか、報告のときに、庄原市は負けてない、発信不足だということ落ちてきているような気がします。市民から、子供がふえていないのだから子育て支援がうまくいってないとか、足りていない部分があるという声があるのも事実で、どこが課題なのかがなかなか見えてこない中で、動きがとりづらい部分もあるのかなと思います。発信の仕方は担当課としっかりと話できていますが、例えば、お母さんなどの保護者と密接に話をされている保健師や助産師といった方々と話をするのは本委員会では難しいですか。

○五島誠委員長 難しくはないと思いますが、保健師等も市の職員なので、直接話ができるかどうかはこちらが決めるというよりもお願いをしてみることにになります。それならば、例えば、子育て支援施設に出向いてお母さんやお父さんの話を聞かせてもらうほうがバイアスが掛かっていない生の声が聞ける可能性がより高まるのかなと。本委員会が必要だということであればやぶさかではありません。赤木委員。

○赤木忠徳委員 今、議会広報委員会でウェブ版をつくらうとしています。その中で、子育て支援の関係を特集したいという議長の思いもあります。それに向けて、本委員会である程度取りまとめをして、本委員会としてウェブ版をつくる方向性にしたらどうですか。

○五島誠委員長 それは既に進行中のことだと思いますので、記事の作成等については事務局と相談しながら進めてまいりたいと思います。横路委員。

○横路政之委員 本委員会、いろいろな課をまたいだ総合的なものをつくっていかうという思いですよ。子育てだけではなく、奨学金など関連するもの全部を一緒にして、ぱっと見ればわかるようなものを。大変だと思います。

○五島誠委員長 わかりました。検討が必要かと思いますが、報告書をつくらうと思うとまだ調査が足りない部分があるのかなと思います。その辺は、委員会というよりもワーキンググループのような形で整理をしながら進めていかなければならないのかなと。そのほうが議論しやすいのでいいのかなと思います。この委員会が終わった後に少し話をします。そのほかにありますか。よろしいですか。今

後の進め方については、委員長、副委員長に御一任ください。よろしく願いいたします。ここで暫時休憩として、次回の日程を決めます。

午前10時20分 休 憩

午前10時31分 再 開

○五島誠委員長 休憩前に引き続いて、会議を再開いたします。次回の委員会は11月11日ということでよろしく願いいたします。

2 西城紫水高校における主権者教育のまとめ

○五島誠委員長 協議事項2点目、西城紫水高校における主権者教育のまとめということで、先般、10月22日に西城紫水高校を訪問して、さまざまな話ができただけではないかと思えます。きょうは、このまとめについて協議します。

○赤木忠徳委員 主権者教育であっても、それに対する話ができいていません。市議会ガイドブックを利用した話は最初の説明だけで終わってしまったため、要望の話になってしまいました。そこをどう取り扱うのかという問題があると思えます。

○五島誠委員長 私の思いとしては、市議会ガイドブックの説明を行った後に生徒同士で、例えば、校則をどう変えていくのかなどいろいろな要望事項が出ていたと思えます。それは必ずしも市役所や県教育委員会だけではなく、例えば、学校の中の問題や、生徒の力で新しく部活をつくることできるという話も伺っています。そうしたことを受けて、そもそもこのことが政治なのだということを経験してもらい機会になればいいと思っていました。アンケートを見ると、そういう思いを少し持たれたような意見もあったので、ぱっちりだと思っています。まとめをどのようにしようかなと思っています。最終的には市民と語る会と同じような形で報告書にまとめるのがいいのかなと思うので、皆さんがそれぞれ聞いた御意見などをください。それをもとにまとめていきたいと思えます。口頭ベースでいきますか。きょうこの場で皆さん言ってもらって、それを議事録ベースでまとめさせていただきます。まず、市議会ガイドブックを読んだ感想や疑問などがあれば、前田副委員長。

○前田智永副委員長 冒頭で説明を行って、その後すぐに班に分かれて意見交換に入ったので、市議会ガイドブックの話に特化してはいないかもしれませんが、個人的にQRコードを帰ってから読んでみますとか、議員は何をしているのかなという感覚だったがすごく話しやすい人たちだったという御意見をくださったので皆さんにお伝えしておきます。

○五島誠委員長 続いて、今回の2テーマは実はリンクしていて、2つとも同じような意見があったのではないかと思えますが、整理上、一応まとめたいと思えます。まず、庄原での高校生活について、特に生徒の方々のお悩みや、逆にいいことなどを聞かれていると思うので、それぞれ報告してください。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 私は非常にがっかりしました。高校生は主権者意識がほとんどない。だから、もっ

と議員にかみついて来てくれればよいなと思いました。あなたたちは何をしてくれたのかと。極端に言えば、こんなに地域が疲弊してきているのに有効な手だてをしてこなかったからこのまちはこんなに人口が減ったのではないか、JRの数が減ったのではないかと、かみついてきて主権者たる高校生の権利を主張しない。だから、主権者教育が本当に学校の中でできているのかなと非常に強く疑問を感じました。具体的に一つ一つ、議会が何をしているのかと、市民として直接請求で何ができるのかといったことは机上ですぐわかるけれども、本質が理解できていないと非常に強く感じました。

○五島誠委員長　そのことについては、今に限った話ではないと思います。それこそ、我々が中学生、高校生だったころを振り返って、主権者教育がそこまでできていたのかというか、主権者であることを意識して過ごしていたかといえば疑問があります。そうした意味で、学校教育の中で主権者教育が十分ではないと今回改めて感じたと記載すればいいのではないかなと。そのほかにありますか。まず、庄原での高校生活について報告を受けます。藤木委員。

○藤木百合子委員　庄原での高校生活について聞くと、芸備線がよく遅れたりとまったりするので困る、とまと学校を休むことになる。家族の人に送ってもらうのかと聞くと、休むことが多いと言われて、そういう意味では本当にかわいそうだなと感じました。ほかには、寮にWi-Fiがない、モバイルなども使えないという意見が出ていました。どう対応しているのか、私自身がこのことがよくわからないので、寮とコンビニが遠いのでカップラーメンなどの自動販売機がほしいという意見も出ていました。あとは、人数が少ないのでいろいろな意味でチャンスが非常に少ない。恋愛などについてもチャンスが少ないので面白くないという意見が出ていました。人数が少ないので非常に仲よくなれるのではないかと行ったけれども、うーんという感じの反応でした。少し否定的で、あまり上向きの意見は出ませんでした。

○五島誠委員長　前田副委員長。

○前田智永副委員長　寮の整備、学校環境整備、校則、購買、自動販売機などいろいろな要望がありましたけれども、私が話を聞いた班では、前向きではなかったけれども、そう言われてみるともっと話をしてみれば変わるかもしれないという着地点を迎えたパターンが多かったので、先生ときちんと話ができているかが一番の問題であると生徒が認識していることにすごく感心しました。キャラクターについても、ヒバゴンだけではなく、自分たちでもつくってみたけれども、先生に聞いてもらえなかった。しかし、そこで諦めるのではなくもう1回言ってみるとか、討論会を企画してみるといった前向きな意見で終わったのでよかったなと思います。

○五島誠委員長　宇江田委員。

○宇江田豊彦委員　何か勘違いをされているのではないかと思います。生徒たちがJRの便数が少ないということを議員に言うのは当然だと思うけれども、自動販売機があつたらいい、校則を緩やかにしてほしい、化粧くらいはいいのではないかと、髪に色をつけるくらいはいいのではないかと、校則で制服が決まっているがジーパンとTシャツでいいのではないかなどいろいろな意見を言っていたけれども、学生自治の話だから、まず自分たちでどうすればかなえられるのかというところからスタートする、それこそが自治ですよという話をしました。ですから、議員にどう言うよりも、学校生活における自治を皆さんがどのようにして確立するかが主権者教育ですよという話をしたので、主権者教育が学校で本当にできているのかなと疑問が余計にわいたのです。極端な話をすれば、人の名前を出してはいけないけれども、例えば、赤木議員が高校に行っていたとき、私が高校に行っていたときどう

していたかといえば、学校内の主権者は私たちなのだ、学校内の民主主義をどのようにして確立するかを学校内で闘争していたわけです。極端に言えば、教員は権力者。そういうさまざまな課題を県教育委員会はどのようにして解決しないのかと言っていたわけです。そういう感じが全くしない。議員が来たから、議員と話をして解決できないだろうかというスタンスでいろいろと話をされていたので、それは違うなど。自分たちでできることは自分たちで、議員を巻き込んで運動しないといけないことは議員を巻き込んでという踏み込んだ認識が全然ないなど感じました。前田副委員長が言われたような、かなり深い認識があるのだなど感じられたのかもしれませんが、私自身は感じることはできませんでした。

○五島誠委員長 他にありますか。横路委員。

○横路政之委員 いいところも聞きました。環境のことで、コンビニが近くある、自然が豊か、地域の人が優しいなど。ただ、大人が挨拶しても返さない。廊下を歩いていたら大きな声でこんにちはと言っていたけれども、それを返さない大人がいるということ、声を大にして言っていました。総合的に、Z世代以降の子供だとすごく感じます。何を考えているのかさっぱりわかりません。だから、どのように話をすれば子供に伝わるのか、私たちの感覚ではわかりません。いろいろと話をしても、どういう話をすれば心に刺さるのかが全くわからない。話をやめると静まり返って横を見始めるので、何でもいから話をしないといけない。誰もがだとは思いますが、今の子は難しいです。わけがわからないというのが感想です。私たちの感覚では壁をつくってしまうような感じがしました。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 主権者教育の時間に教員の方が何人もついておられました。教員の皆さんはどのように授業を見ておられたのか聞きたいくらいです。自分たちが日常的に行っている教育活動で主権者意識の高揚を図るための取り組みはされているはずですが。その中で、我々が参加してどのように感じられたのか。各班に分かれた後、先生が来て話を聞かれていたので、一言もしゃべっておられなかったけれども、どのように感じられたのかは非常に興味があります。自分たちの至らなさを思ったのか、これで間違いなかったかと思われるのか、どのように感じられたのかをむしろ聞きたいなと思います。

○横路政之委員 何を思いながら聞かれているのかなと。中にはうなずく人もおられましたが。私たちの主権者教育の会話を聞いてどのように感じられたのか聞いてみたい。私たちも第三者から学ばせてもらわないと。今後も何回かあると思うけれども、話をするきっかけというか、同じようなことを繰り返していくような気がします。

○五島誠委員長 それなら、時間をつくりませんか。向こうがつくれるかどうかは別ですけども。

○横路政之委員 それは聞くだけでも。

○五島誠委員長 前田副委員長。

○前田智永副委員長 教員の皆さんもお忙しいでしょうし、アンケートを取る形にすればどうかと思います。例えば、主権者教育の前後でどのように違うのかは生徒へのアンケートの中にじっくりとはありました。主権者教育についての話はしていないけれども、市議会ガイドブックを見て、実際に話をしてみ、会ってみて政治に対する思いが何か変わったのか、生まれたのか、残念だったのか、そういうことも含めて生徒の皆さんと教員の皆さんに意見を聞いてみるのはいいと思うのですが、わざわざそのために時間をとってもらって話をするのは、これで負担に思われるのもどうなのかなと思います。どうですか。

- 五島誠委員長 宇江田委員。
- 宇江田豊彦委員 時間は多分取れないでしょう。1回したからといって子供たちの意識が変わるわけではない、そういう話もあったなという程度だと思います。けれども、それを受けて今後、学校現場でどのような主権者教育を展開するのが恐らく課題になると思います。その連続した取り組みが学校内で展開されると、ほとんど意味がなくなってしまうと思います。
- 五島誠委員長 横路委員。
- 横路政之委員 もう少しこういう角度で話をしてもらいたかったという意見を、先生の事務作業の負担になるのでたくさんの項目を書くのではなく、可能なら短時間で回答できる内容で聞きたいなと思います。
- 五島誠委員長 本市議会の取り組みとして緒についたばかりなので、これを今後どのようにしていくべきなのかということも課題になると思います。その参考にするという意味で実態を教員の方から、どのような方法でもいいのですが、アンケートなど何らかの方法は考えてみます。
- 藤木百合子委員 まだ本当に始まったばかりなので、アンケートまでは、意見を聞くくらいで時間を取ってまでしてもらわなくてもいいのではないのかなと思います。あとは、孫世代のような感覚で、こちらのほうが非常にドキドキしながら参加しましたが、話の持って行き方があまり準備できていなかったように感じます。最初に庄原での高校生活はどうですかと聞きましたが、18歳になって庄原市の議会や議員をどう思うかといった具体的な話から入ったほうがよかったのかなとか、また行く機会があればそういった話の入り方を検討してから行ったほうがいいなと思いました。
- 五島誠委員長 赤木委員。
- 赤木忠徳委員 我々が担当したのは1年生で、すごく素直だったのと、中には中学校で不登校だった子も結構おられました。学校が楽しい、クラブ活動を頑張っているという話や、西城町では夏にどえりゃあ祭りがあって、参加して非常に楽しかった、来年に向けていろいろな話をしたいが、する場所や時間がないという話も出ていました。その中で、議会に対してどうこうではなく、自分たちの思いを素直に言うこと、要望などいろいろなことを言うことが1つのきっかけとなって物事が動くという話をしました。クーラーを設置してほしいとか、方向性は違うにせよ、JRなどいろいろな所に要望を言うことで物事が動く、何も言わなかったら動かないよという話をしてから要望が結構出ました。高校の1つのレベルで言えば、自分たちの気持ちを他の人に、議員に対して言えたことは、方向性は違うにせよ一歩前進かなと感じました。
- 五島誠委員長 この程度でよろしいですか。続いて、高校の魅力化について、特徴的な議論があれば、横路委員。
- 横路政之委員 この前補助金がついた、いろいろな高校の子が他の高校へ行って学ぶ、地域みらい留学のことをしきりに言う子がいました。北海道や海外へ補助金をもらって行ける高校もあるので、そういうことができるように市の支援がほしいと。こういうことも結構関心があるのかなと感じました。
- 五島誠委員長 他にありますか。宇江田委員。
- 宇江田豊彦委員 いろいろな所から子供たちが来ているので、寮にWi-Fiがほしいという思いは強いようです。県北で寮にWi-Fiがあるのは三次高校だけで、県教育委員会が設置しています。あとはWi-Fiがないようです。話を漏れ聞かすと思うので、三次高校にはあって西城紫水高校にはない。しかも、いろいろな所から来ている。どうしてないのだろうか、親といろいろな情報交換をす

るのにもしんどいという思いが非常に強いようでした。

○五島誠委員長 横路委員。

○横路政之委員 トイレを何とかしてほしいというのもありました。先生が、それは後から話そうと言われていました。

○五島誠委員長 他にありますか。

○藤木百合子委員 魅力については、ヒバゴンとか、少人数であるとか、神楽同好会があって、地域の人と一緒に、交流をしながらイベントに出るといった子もいました。山とか自然があるという意見もありました。

○五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 部活について、子供たちは結構魅力だと感じていると。西城紫水高校は射撃や神楽に強い思いがあるのだなと思ったのですが、射撃場がないらしく、毎年国体に行っているのに練習する場所がこの教室なのだと、そのときにちょうど先生が横を通られて、しっかりと要望しろと言われましたが、そもそも市がすることではないし、市議会がすることではないとお伝えしました。先ほどもあった、地域みらい留学への支援を市がしているけれども、射撃場のところにまではまだ行き着かないと感じました。そういう環境整備は、子供たちの声を学校がしっかりと把握して、そこから要望につなげる仕組みづくりが、これがきっかけでできればいいなと感じました。

○五島誠委員長 他にありますか。横路委員。

○横路政之委員 スマホを持っていてもいいが、使ってはいけない。休憩中も。これは県全体で統一しているのだと思うのでそこまでは言わなかったけれども、そういう要望も根強いのではないのかなと。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 子供たちの要望をどこに言えばいいのかという整理を教職員がしてあげていない。例えば、寮にWi-Fiがほしいのなら県教育委員会へ。留学制度にせよ、県が対応してもう少し広域的にできるようにしてくれということを経験者がまとめて、子供たちの要望をぶつける所を明らかにして取り組むということをしていない。昔はそんなことはなかった。教職員が、この思いはどこへぶつければいいのかということをしきりと整理してくれて、宇江田君それは、という話を教職員がしてくれたけれども、そんなことを教職員が全くしていない。全くかどうかはわからないけれども、ほとんどされていないのではないかという気がします。今回我々が話をする際に、選挙につながるようなことを言うてはいけないとか、体制を批判するようなことを言わないようにしてくれとかたくさん言われたけれども、学校の中でそういうことを明確に言うことが許されない世の中になっている。実際には、学校内の動きは主権者教育とは真反対の方向になっていて、少しずつ取り組むようなことをしてもなかなか効果が出ないのではないかという気がします。

○五島誠委員長 他にありますか。皆さんから出ていない意見で、西城の魅力化にもつながるのですが、ポイ捨てが多いと感じておられて、どのようにしてなくすのかという話をしたところ、ごみ箱をふやしてみてもどうか、みんなでごみ拾いをする時間をつくってはどうかという解決策を言われていました。赤木委員。

○赤木忠徳委員 学校でごみ拾いをしています。駅の掃除もしたり、西城紫水高校はそういう活動を結構していますよね。

○五島誠委員長 そういう活動をする中で、ごみが多いと感じられているのだと。帰宅のスピードを競

う部活をつくりたいという子がいました。どれだけ早く帰宅できるかを競う部活にすれば、要は、全員が部活に入っていて、帰宅部は認められてない。ただ、西城紫水高校の場合、毎日部活があるわけではない。火曜日の紫水タイム、みんな絶対に部活をしないといけない時間があるって、そういうことが苦になっている方もおられる。Wi-Fiのことも言っていました、JRにもWi-Fiがほしいとか、至るところにWi-Fiがほしいのです。寮のことでは、御飯の味付けがちょっととか、お湯がほしいとか、そういったすぐ解決できそうな部分もあったり、御飯をおいしくとかはなかなかできませんが、スマホの利用のことであったり、いろいろな要望があるのだなど。西城紫水高校は人数が少ないし、先生や職員との距離が近い。冒頭で申し上げましたが、自分たちがしたい部活を新たに作るができるわけで、本来であれば生徒の要望など声が届きやすい。そこに、西城紫水高校の特徴や魅力につなげることに取り組める可能性がすごくあると思いました。ここをどのようにして伸ばすのが大事な部分だと思うので、機会があれば今年度中にもう1回行くのもいいのかなと思います。そういったところで、まとめについては皆さんからあった報告をもとにつくりますので、よろしくお願ひいたします。

○赤木忠徳委員 子供たちが勇気を出して要望したことをある程度まとめて、これをどう生かすのかということだけはしてあげないと。言っただけで終わってしまうのはいけないので、これをまとめて高校に返す。高校から県に言ってください、交通機関に言ってくださいという形にするのか、我々が言うのか、その辺は委員会として取りまとめる必要があると思います。言いつ放しで済まないように何かしてあげたいなと思います。

○五島誠委員長 わかりました。検討します。どのような形がいいのかは報告書を作る中で考えてみます。また皆さんにお示しします。

○宇江田豊彦委員 それをするなら、主権者教育の場で、我々の物言いを考えて言わないといけません。これは具体的には難しいですよとかそういう話をせざるを得なくなります。

○五島誠委員長 どこまでできるのかということも含めて、頭を悩ませて報告書をつくってみますので、よろしくお願ひいたします。

3 その他

○五島誠委員長 その他で話のある方はおられますか。

〔「なし」 との声あり〕

○五島誠委員長 協議事項を全て終了しましたので、教育民生常任委員会を閉じます。

午前 11 時 9 分 散 会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委員長